

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

日だまりハウス

日付 平成 21年 2月 25日

特定非営利活動法人

評価機関名

ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

津山市の西部、旧久米町に平成16年3月、このグループホームを開設した。地域の高齢者が安心して暮らせるよう貢献したいと、社長はこの地にご主人と共に根を下ろした。広大な田畑や山地を活用して最初のグループホームが完成して、その翌年平成17年6月にはグループホーム別館を開設した。そして平成20年には小規模多機能型ホームを開設し、地域密着型のサービス事業を展開している。自分の家族をこの事業に従事させ、家族同様に信頼されている管理者や職員と共に、この事業を通じて地域の高齢者が年老いても、認知症になっても、人間としての尊厳を大切に、自分の役割や楽しみを何時までも持ち続けていける生活が続けられるよう支援していく道筋の基盤が出来た事になる。そして、今後も大人から子供までが、この地域で共存共栄していけるような事業展開していく夢を、持ち続ける情熱的な女社長の存在が輝いている。折しも、訪問した時はクリスマス前の12月初旬。自動車の行き交う道路からよく見える別館の屋根と木にイルミネーションが設置され、「日だまりハウス」が夜空に浮き彫りに照らされていた。これからの社長の夢を象徴する姿でもある。

社長は「人間が好き」「人の子も自分の子も一緒」という基本的な考えがあり、職員には自分の子供達も含めて「ここで人生を学びなさい。働く事で人間関係の形成を体験しなさい」と言っている。利用者にも「自分の身体が動く限り、自分の為、人の為に働きなさい」と毎朝全員でホームの掃除をするのが恒例となっており、男も女も廊下や自室を掃き掃除をする。又、自分の出来る役割を持っている。一人の男性は食事後の食器の洗い物を一手に引き受けている。女性は調理の手伝いをする。

このホームの『日だまりハウス』の名称やエネルギーは「日の丸」で象徴されている。リビングルームの座敷の床の間に神棚と天照皇大神の掛け軸が掛けられている。このホームの男性利用者一人は神を信じ、毎日一日3回祝詞を奏上し、深々と拝礼をしているのが日課となっている。どんな宗教でも信心する気持ちを持つ事によって心が癒せる、又は自分が生きていく為の心の糧になることだろう。

このホームから緩やかな勾配で別館の方に広い畑が伸び広がっている。ここはホームの畑というより本格的な畑で、色々な作物が植えられ、果物の成木もある。そこで農作業したり、収穫するのも楽しみである。元気な頃、農業をしていた人もおり、季節が良い時は外気に触れる生活出来るのも元気の源である。毎日近所を散歩しながら廻るのも利用者の楽しみである。

色々な事を体験しながら、利用者と職員で自然の中でゆったり生活出来るホームである。

特に改善の余地があると思われる点

ホームのケアやサービスに関する運営も充実し、利用者も安心して生活出来る様になっているので、一人ひとりの利用者のケアプランや記録が利用者の生活に密着し、職員の業務の柱となる様、単純且つ効果の高いシステムに改善していけるよう、お互いに協力していきましょう。

2. 評価結果（詳細）

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：社長の利用者への思いに対し、管理者と職員は日常のケア及び業務に生かして行動しているため、改善の余地はない。職員が認識し、目標を持って、利用者を一人の人間として常に接してもらいたい。</p> <p>2、全体的に見て…：このホームの事業の目的として「日常生活上の世話及び機能訓練を行う事により、有する能力に応じて自立した日常生活を営む」ことを掲げている。朝食後、全員が参加し、自分の出来る範囲で掃除をする。家事に参加する。散歩に参加する。これらを通して自身の身体機能を維持し、皆で生活する中に参加意欲を高める。お互いに助け合う気持ちを共有することにより、それぞれの人が自分らしい生活を感じてもらおうとしているのだろう。利用者との職員の行動を見ることによってこのことを確認した。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：生活空間は広さ及び構造的に改善する所はない。</p> <p>2、全体的に見て…：広い敷地の中に、社長の自宅を中心にこのホームと別館のホームがあり、その間には大きな畑がある。その外のスペースだけを見ても、利用者の行動範囲は十分過ぎる程である。建物の構造は木造平屋建てで全般的には無垢の木をふんだんに使った床、壁、建具で暖かさや潤いを感じさせてくれる。リビングルームは食堂部分と広い畳の間、10畳位はあるのだろうか。床には大きな掛け軸があり、日の出の太陽に天照皇大神の字句が目につく。本間造りの間取りは一段と広さがある。リビングルームから広い廊下が伸びて、その両側に居室や浴室、トイレがある。昼間は居室の入口は全部開放され、風通しも良い。なにが開放的な田舎の大豪邸を思わせる。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：介護計画策定のプロセスを見直して、より効率的な方法で介護計画を職員の中で共有化できるように改良しようとする意欲がある。改善の提案の項目にも示したが、介護計画と記録が利用者の中の糧となっていけるよう期待している。</p> <p>2、全体的に見て…：家族関係がうまくいっていない人、病院に入院して食べられなくなっている人、薬漬けになっている人、寝たきり状態になっていた人等、ホームの職員がそれぞれの人が抱えている精神的障害を乗り越え、あるいは生きていくための障害を職員の温かいケアや関わりの介入によって、それぞれの利用者が食欲が増し、歩けるようになって、元気を取り戻して人間回復できた事例が多い。このように元気で明るく生活ができるようにケアしてきたことが最高のそれぞれの人に対する尊厳を守り、その人らしさを見出してあげたことになる。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：家族とは利用者がホームで生活していくについて、要望や希望は良く聞いて、お互いに良い関係を保っている。又、地域の高齢者に対する相談や交流の拠点となるよう着々と基盤を築いてきた。これからは色々な人が集える場を提供していけるよう社長の志は大きい。</p> <p>2、全体的に見て…：利用者とは、安心・満足の関係を常に築き、利用者同士でも助け合いの生活ができています。家族とは、利用者との人間回復から表情豊かになり、その人らしい生活を見て、ホームでの生活に、安心・信頼の関係を築いている。地域の人々とはホームの関係を密にして、ホームが開催する納涼祭等では信頼と協力の関係が築かれ、地域と一体化された存在の雰囲気が生まれている。これらの関わりを社長や管理者・職員が日常の業務としてしっかりとってきた成果が実ってきた。</p>		